



ジョン・ウィリアムズ

60年以上にわたりキャリアを重ねている、アメリカでもっとも熟達し、成功している映画音楽および演奏会用音楽の作曲家のひとり。アメリカの価値ある音楽組織のひとつであるボストン・ポップス・オーケストラで音楽監督および桂冠指揮者を務め、現在もボストン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ交響楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニックなど、数多くの世界一流の楽団と活発な芸術活動を続けている。これまでにアメリカ国民芸術勲章、ケネディ・センター名誉賞、英国のエリザベス2世女王陛下より名誉大英勲章KBE、オリンピック・オーダー（勲章）、そして幾つものアカデミー賞、グラミー賞、エミー賞、ゴールドデン・グローブ賞など、さまざまな名誉ある賞を受賞。アメリカでもっとも著名で貢献の著しい音楽界の声のひとりとして、現在も活躍を続けている。

これまでに作曲を担い、音楽監督を務めた映画は100作を超える。ステイーヴン・スピルバーグ監督との50年にわたる芸術的パートナーシップでは、『シンドラーのリスト』、『E.T.』、『ジョーズ』、『ジュラシック・パーク』、『未知との遭遇』、『インディ・ジョーンズ』シリーズ、『プライベート・ライアン』、『アミスタッド』、『ミュンヘン』、『フック』、『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』、『マイノリティ・リポート』、『A.I.』、『太陽の帝国』、『タンタンの冒険』、『戦火の馬』、『BFG:ビッグ・フレンドリー・ジャイアント』、『リンカーン』など、ハリウッド屈指の大ヒットに数えられる映画が幾つも生まれている。最新のコラボレーションである『フェイブルマンズ』の音楽は2022年初めに作曲。『スター・ウォーズ』シリーズ全9作品、『ハリー・ポッター』シリーズの最初の3作品、『スーパーマン』、『JFK』、『7月4日に生まれて』、『SAYURI』、『遙かなる大地へ』、『偶然の旅行者』、『ホーム・アローン』、『ニクソン』、『パトリオット』、『アンジェラの灰』、『セブン・イヤーズ・イン・チベット』、『イーストウィックの魔女たち』、『ローズウッド』、『スリーパーズ』、『サブリーナ』、『推定無罪』、『11人のカウボーイ』、『華麗なる週末』、『チップス先生さようなら』など、ほかにも数々の映画の音楽を作曲。現在進行中の映画プロジェクトは、ジェームズ・マンゴールドが監督する大人気シリーズ5作目となる『インディ・ジョーンズと運命のダイヤル』。アルフレッド・ヒッチコック、ウィリアム・ワイラー、ロバート・アルトマンなど、伝説的な監督とも仕事をしてきた。1971年には映画版『屋根の上のバイオリン弾き』の編曲を担い、名手アイザック・スターンのためにオリジナル・ヴァイオリン・カデンツァを作曲。ピアニストおよび指揮者として、イツァーク・パールマン、ジョシュア・ベル、ジェシー・ノーマンなどとの共演で、録音にも携わってきた。これまでにアカデミー賞を5回受賞しており、現在存命の人では最多の53回ノミネート、アカデミー賞史上でも歴代2位のノミネート数を誇り、直近では『スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け』でノミネートされている。また、英国アカデミー映画賞（BAFTA）を7回、グラミー賞を25回、ゴールドデン・グローブ賞を4回、エミー賞を5回受賞しており、ゴールドおよびプラチナ・ディスクも多数贈られている。

ニューヨークに生まれ育ち、1948年に一家でロサンゼルスへ移り、同地でマリオ・カステルヌオーヴォ＝テデスコに作曲を学ぶ。空軍に従事したのちにニューヨークへ戻り、ジュリアード音楽院でロジーナ・レヴィーンにピアノを師事。ニューヨークではジャズ・ピアニストとしてナイトクラブでも働いた。やがてロサンゼルスへ戻ると、映画業界に入り、バーナード・ハーマン、アルフレッド・ニューマン、フランツ・ワックスマンなど幾人もの著名な作曲家と仕事をようになる。さらに、画期的な初期のアンソロジー・シリーズ「Alcoa Theatre」、「Kraft Television Theatre」、「Chrysler Theatre」、「Playhouse 90」など200作品を超えるテレビ映画の音楽を作曲。より近年では、よく知られる「NBC Nightly News」のテーマ音楽（《The Mission》）や、ネットワーク・テレビの最長寿シリーズ番組となっているNBCの「Meet the Press」のテーマ音楽、また、PBSの名高い芸術鑑賞番組「Great Performances」の新しいテーマ音楽などのテレビ音楽も手がけている。



ジョン・ウィリアムズ

映画やテレビ業界での活躍に加え、演奏会用の作品も数多く作曲しており、これまでに2曲の交響曲や、フルート、ヴァイオリオン、クラリネット、ヴィオラ、オーボエ、テューバのための協奏曲などを書いている。ボストン交響楽団の委嘱によるチェロ協奏曲は、1994年にタングルウッドでヨーヨー・マによって初演された。ほかにも、ニューヨーク・フィルハーモニックのために《The Five Sacred Trees》と題するファゴット協奏曲、クリーヴランド管弦楽団のためにトランペット協奏曲、シカゴ交響楽団のためにホルン協奏曲など、世界の一流オーケストラの委嘱作品を幾つも手がけている。米国議会図書館の 桂冠詩人を務めたリタ・ダヴの詩を題材にした7曲で構成されるソプラノと管弦楽のための歌曲集《Seven for Luck》は、1998年にタングルウッドでボストン交響楽団が初演。ボストン交響楽団は2009/2010年シーズンのオープニング・コンサートでも、ジェームズ・レヴァインの指揮で、ウィリアムズのハーブと管弦楽のための新しい協奏曲《On Willows and Birches》を初演している。2021年、ウィリアムズはタングルウッドで、アンネ＝ゾフィー・ムターのために書いた自身2作目となるヴァイオリン協奏曲を、ボストン交響楽団とムターの独奏で初演している。

1980年1月、アーサー・フィードラーの後任として、ボストン・ポップス・オーケストラの第19代音楽監督に就任。実り多き14シーズンを務めたのち、1993年12月に退任して以降、現在はボストン・ポップス桂冠指揮者。また、タングルウッドでアーティスト・イン・レジデンスも務めている。

アメリカでもっともよく知られる、もっとも発言力のある芸術家のひとりであり、数々の重要な文化・記念イベントの音楽を作曲してきた。《Liberty Fanfare》は1986年に自由の女神像の修復完成を記念して作曲。新しいミレニアムを祝い、ステイーヴン・スピルバーグ監督による回顧的な映像作品『The Unfinished Journey』の付随音楽として書かれた

《American Journey》は、1999年の大晦日にワシントンで開催された「America's Millennium」コンサートで初演されている。管弦楽作品《Soundings》はロサンゼルスウォルト・ディズニー・コンサートホールのこけら落しで演奏された。スポーツ界では、1984年、1988年、1996年の夏季オリンピック大会、2002年の冬季オリンピック大会、スペシャルオリンピックスの1987年夏季世界大会で音楽を手がけたほか、2006年にはNBCの番組「Sunday Night Football」のテーマ音楽も作曲している。

これまでにハーバード大学、ジュリアード音楽院、ボストン・カレッジ、ノースイースタン大学、タフツ大学、ボストン大学、ニューイングランド音楽院、マサチューセッツ大学ボストン校、イーストマン音楽学校、オーバーリン音楽院、南カリフォルニア大学など、アメリカの22の大学から名誉学位を贈られている。2009年、アメリカ政府が芸術家に贈る最高位の賞である国民芸術勲章を受賞。2020年、スペインの栄えあるアストゥリアス女公芸術賞と英国ロイヤル・フィルハーモニー協会のゴールド・メダルを受賞。2016年、作曲家として初めてアメリカン・フィルム・インスティテュート (AFI) の第44回Life Achievement Awardを受賞。2003年、オリンピック・ムーブメントへの貢献により、国際オリンピック委員会 (IOC) の最高位の勲章であるオリンピック・オーダーを受章。パサディナで開催された2004年ローズ・パレードでグランド・マーシャルを務め、同年12月にケネディ・センター名誉賞を受賞。2018年、全米レコーディング芸術科学アカデミーのグラミー賞 特別功労理事会賞を受賞。2009年にアメリカ芸術科学アカデミーの会員となり、同年1月にバラク・オバマ大統領の最初の就任式のために《Air and Simple Gifts》を作曲/編曲。英国のエリザベス2世女王陛下が生前承認した最後の叙勲のひとつとして、名誉大英勲章KBEを授与されている。



ステファン・ドウネーブ

セントルイス交響楽団音楽監督、ニューワールド交響楽団芸術監督。2023年よりオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者にも就任する。これまでにシュトゥットガルト放送交響楽団（SWR）首席指揮者、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団音楽監督、フィラデルフィア管弦楽団首席客演指揮者およびブリュッセル・フィルハーモニック首席指揮者を歴任。

卓越した質の高い演奏とプログラム構成で国際的に知られ、主要コンサートホールで世界一流のオーケストラやソリストと定期的に共演。母国フランスの音楽にとりわけ親しみが深く、21世紀音楽にも積極的に取り組む。

最近の出演および今後予定される出演は、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、NHK交響楽団、サンタ・チェチーリア国立管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団（2020年ノーベル賞コンサートでも共演）、フランス国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団等。これまでに数多くの世界一流ソロ・アーティストと共演を重ねている。

2022年にはワシントン・ナショナル交響楽団との共演で、ジョン・ウィリアムズの90歳を祝う公式バースデー・ガラ・コンサートの指揮者を務めた。

オペラの分野では、2019年オランダ芸術祭の新演出による《ペレアスとメリザンド》でロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団およびオランダ国立歌劇場を指揮しているほか、ロイヤル・オペラ・ハウス／コヴェント・ガーデン、パリ・オペラ座、グライントボーン音楽祭、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、バルセロナ・リセウ大劇場、ベルギー王立モネ劇場、ライン・ドイツ・オペラなどにも出演。

レコーディング・アーティストとしては、プーランク、ドビュッシー、ラヴェル、ルーセル、フランク、コネソンの作品の録音で高く評価されている。また、ディアパソン・ドール年間最優秀賞を3度受賞し、グラモフォンのアーティスト・オブ・ザ・イヤー賞の国際クラシック音楽賞の交響曲部門で受賞。最新盤はロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団とのオネゲル《火刑台上のジャンヌ・ダルク》のライヴ録音、ブリュッセル・フィルハーモニックとのギヨーム・コネソン作品を収めた2枚のアルバム（1枚目はディアパソン・ドール年間最優秀賞、セシリア賞、『クラシカ』誌のCHOC賞を受賞）など。2022年にはヘンスラー・クラシックよりシュトゥットガルト放送交響楽団とのラヴェル管弦楽作品全集ボックスがリリースされている。

パリ国立高等音楽院をプルミエ・プリを得て卒業し、キャリア初期にゲオルク・ショルティやジョルジュ・プレートル、小澤征爾と間近で仕事をし、ボストン交響楽団を指揮してカーネギー・ホールにデビュー。才能溢れるコミュニケーターおよび教育者であり、次世代の音楽家や聴き手の触発に意欲を傾け、ニューワールド交響楽団、タングルウッド・ミュージック・センター、コルバーン・スクール、EUユース管弦楽団、ミュージック・アカデミー・オブ・ザ・ウェストなどで定期的に若者と携わるプログラムに取り組んでいる。